

顔面痛について

顔面の痛みの原因は、主に3つあります。

- 一つ目は、三叉神経痛や帯状疱疹後神経痛が顔面に出るもの。
- 二つ目は、脳卒中の後遺症の一つとして顔面に痛みが出るもの。
- 三つ目は、頸部の最上部(頸椎1番)の高さの脊髄が原因のもの。

顔の感覚神経である三叉神経の障害が多く見られます。

ここでは三叉神経痛について解説します



三叉神経とは、顔面の感覚と口腔運動（筋肉）をコントロールしている脳神経（第5番）です。3つに枝分かれしている事から3枝ごとにみます。

- 第1枝 ⇒ 目の奥の疼痛
- 第2枝 ⇒ 鼻の横や頬に刺すような痛み
- 第3枝 ⇒ 奥歯に食事や歯磨き時にビリッとする激痛 など

一般には、三叉神経の近くにある動脈が神経を圧迫して起こる場合に手術の適応とされていますが、それ以外のほとんどのケースは原因不明とされています。

三叉神経痛の一般的な治療

抗けいれん剤（神経膜を安定化）・・・カルバマゼピン抗うつ剤の内服
ブロック注射（局所麻酔剤）
手術 等

三叉神経痛に対する遠絡統合療法

痛みの原因は、三叉神経の神経線維は圧迫もしくは、破壊されて痛みが発生していると考えています。神経線維自体の代謝が正常に戻り、神経線維が修復される事を目的に治療します。

既存の医療では、三叉神経痛は難治性とされるケースが多いですが、遠絡統合療法では適応の疾患です。多くの場合、初回もしくは数回の治療で痛みが軽減される事を実感いただいています。症状が軽減する事は、神経線維が修復される見込みがある事の確認になります。痛みを取り除く事だけが目的ではなく、神経線維を修復できる状態にすることが最大の治療目的となっています。

遠絡統合医学では、神経機能の障害を神経細胞と神経線維に分けて分析しています。痛み症状は神経線維の障害になります。神経線維の障害が修復されるためには、血液やリンパ液、電解質が十分に循環する必要があります。遠絡統合医学では、神経系の伝達も含め、血液やリンパ液、電解質などの流れを総称してライフフローと呼んでいます。スムーズなライフフローが十分に確保されている事は自己の修復力、治癒力に直結します。遠絡統合療法の目的はライフフローを調整する事にあります。つまり、身体の自己治癒力を再建させる事になります。「長く患っている」「症状が変化しない」という状態の根本に対してのアプローチができます。

症例 1

50代 女性

特にきっかけはなく食べ物を咬むと、奥歯にピリッと激痛が出るようになり、歯科を受診し三叉神経痛と診断されました。鎮痛薬を処方されましたが服用しても、改善がみられず遠隔療法を開始する事になりました。

指にある治療点を2点押すことで、奥歯をかみしめた時の痛みが改善されました。継続的に三叉神経の根元からの治療も行い、2ヵ月程度で支障なく食事を取る事ができる様になりました。

解 説

顔の奥から広がる痛みで、刺激すると増幅するもしくは針で刺すような痛みが出るのは三叉神経痛の特徴です。下から上がってくる表面の痛みは、第一頸椎のレベル(アトラス)の脊髄が原因となる痛みの特徴となります。痛みの軽減は比較的次数回の処置で改善が確認できますが、神経自体をしっかり修復する為の治療継続期間は必要となります。修復をしっかり促す事で再発の防止につながります。